お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

●全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎ (03) 5783-0626 (代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目1番地1（日本生命札幌ビル） ☎ (011) 271-4751 (代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎ (022) 288-8676 (代)
関東支店	〒110-0016	東京都台東区台東四丁目11番4号（三井住友銀行御徒町ビル） ☎ (03) 5812-6331 (代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル） ☎ (052) 262-3811 (代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎ (076) 263-4311 (代)
関西支店	〒663-8243	西宮市津門大箇町10番20号 ☎ (0798) 37-2665 (代)
中国支店	〒730-0826	広島市中区南吉島二丁目3番7号 ☎ (082) 504-8282 (代)
四国支店	〒760-0078	高松市今里町一丁目28番14号 ☎ (087) 863-6761 (代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎ (092) 621-5772 (代)

●電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く　午前9:00〜午後5:00)

電動工具ホームページ　http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

907

部品コード　C99125101

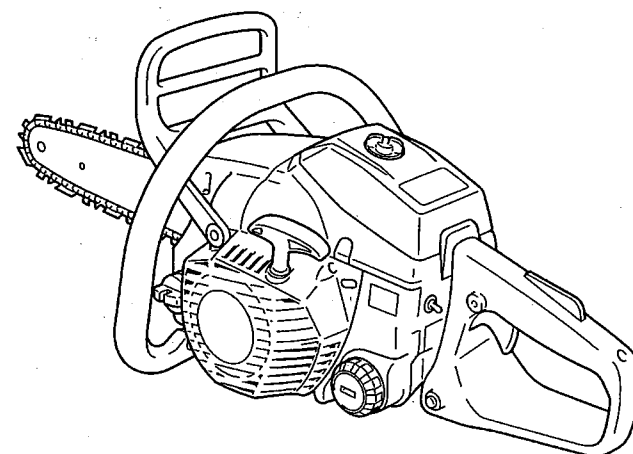
Hitachi Koki

日立エンジンチェンソー

350mm CS 35ED3
400mm CS 40ED3

取扱説明書

このたびは日立エンジンチェンソーをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

排出ガス自主規制
適合証

HITACHI

目　次

ページ

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ 警告」、「⚠ 注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注：**製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

エンジンチェンソーの安全上のご注意

- **火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

全般的なこと

① 指定された用途以外に使用しないでください。

② 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。

- そで口をきちんと閉めた作業服、すそ閉まりの良い長ズボンを着用してください。また、ネクタイや装飾品等の回転部に巻き込まれたり、引っ掛かりやすいものは着用しないでください。
- 髪の毛は肩より上でまとめてください。
- 保護メガネを着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 防振性のある厚めの手袋を付けてください。ただし、滑りやすいものや、厚すぎて機体を操作しにくいものは使用しないでください。
- 滑り止めの付いた安全靴を履いてください。
- 耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ほこりの多い場所では、防じんマスクを着用してください。

保護具を着用しないで作業すると、けがなど事故の原因になります。

③ 油断しないで十分注意して使用してください。

- 取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に使用してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。
- 視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼすような酒類、薬物を飲んでいる人は使用しないでください。

④ 身体を冷やさないようにしてください。

⑤ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、機体に触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場所へ近づけないでください。

⑥ 子供や取扱説明書をよく読んでいない人または取扱いに不慣れな人には機体を使用させたり、貸したりしないでください。

⚠ 警　告

⑦ 夜間や天候不良などの視界の悪いときは使用しないでください。また、雨中や雨上がりのぬれた場所では使用しないでください。
足元が不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。

⑧ チェン刃の取付け、取りはずしをする場合は手袋を付けてください。 けがの原因になります。

⑨ エンジンの回転中は、チェン刃やガイドバーに手や身体および衣服などを近づけないでください。 けがの原因になります。

⑩ 二人以上で作業する場合は、お互いの安全に十分注意してください。
- 他の作業者との間隔を十分に取ってください。
- 立木の伐採や傾斜地の作業などの場合は、他の作業者に危険のないことを確認のうえ作業してください。
- よび笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。

⑪ 万一の事故に備え、応急手当用品の入った救急箱を作業場所の近くに用意してください。

使　用　前

① この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の日立エンジンチェンソー用チェン刃およびガイドバーを使用してください。

② チェン刃は取扱説明書に従って、正しく取付けてください。
誤った取付けかたをすると、ガイドバーからチェン刃がはずれ、けがの原因になります。

③ 始動前にチェン刃の損傷やチェン刃の張りのゆるみがないか点検してください。 チェン刃が切れたり、はずれたりして、けがの原因になります。

④ 始動前に各部を点検してください。
- 機体に損傷がないか、正常に作動するか、所定機能を発揮するか確認してください。
- ねじのゆるみ、燃料漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 異常がある場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑤ 燃料を補給するときは注意してください。
- エンジン停止後、機体が冷えてから補給してください。
- 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
- 燃料がこぼれたら、よく拭き取ってください。

爆発や火災の原因になります。

⚠ 警　告

⑥ エンジンを始動する場合は注意してください。
- 機体を平らな場所に置いてください。
- 他の人を近づけないでください。
- チェン刃が木材や地面に触れていないことを確認してください。
- 各部の点検・調整に使用したドライバーやスパナが取りはずされているか確認してください。
- 周囲にかれ草、燃料、可燃ガス、その他の可燃物のある場所では行なわないでください。
- 燃料を補給した場所から3m以上離れた場所で行なってください。

不用意な始動は、けがや火災の原因になります。

使　用　中

① 無理な姿勢で使用しないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- 足元の不安定な場所では使用しないでください。はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。

転倒したり、落下して、思わぬ事故の原因になります。

② 使用中は、両手で確実にハンドルを保持してください。
機体がはね返り(キックバック)、けがの原因になります。

③ 左手で前ハンドルを、右手で後ハンドルを握ってください。
- ガイドバーを前にして、機体の左側に立って作業します。切断線上(ガイドバーの延長線上)に身体を置かないでください。

けがの原因になります。

④ ガイドバーの先端部で切断しないでください。また、ガイドバーの先端部が枝や地面などに触れないように作業してください。
機体がはね返り(キックバック)、けがの原因になります。

⑤ 肩の高さより高い位置で使用しないでください。
けがの原因になります。

⑥ 先端に物が載って曲げられている枝など、たわんでいる木材を切ると反動ではね返ることがあるので、十分注意してください。

⑦ 火気に注意してください。
- 運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
- 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
- 燃料、可燃性ガス、その他の可燃物のある場所では使用しないでください。
- 乾燥地帯で使用する場合は、消火用具を準備してください。

爆発や火災の原因になります。

⚠ 警　告

⑧ 排気ガスに注意してください。
- 屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。
- 建物、その他の設備に排気ガスが入らないように注意してください。
ガス中毒や窒息の原因になります。

⑨ マフラなどの高温部や、点火プラグ・高圧線まわりに触れないでください。火傷や感電の原因になります。

⑩ 誤って落としたり、ぶつけたときは、チェン刃、ガイドバーや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがや火災の原因になります。

⑪ 次の場合はエンジンを停止してください。
- 使用しない、または修理する場合。
- チェン刃、その他、機体の点検、調節、交換などをする場合。
- 危険が予想される場合。
- 作業場所を移動する場合。
- 機体を地面に置く場合。
エンジンが回転したままでは、けがなど事故の原因になります。

⑫ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音・異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止めて、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがなど事故の原因になります。

〔事業者の方へ〕

チェンソーを使用して伐採、造材などの作業をする場合は、伐採などの業務に係る特別教育を受けた人に作業させてください。
（関連法令：労働安全衛生法第59条第3項、安全衛生特別教育規定第10条の2、労働安全衛生規則第36条第8項の2）

使用後

① 機体を運搬したり、保管する場合は、ガイドバーに付属のチェンケースをかぶせてください。
チェン刃に触れて、けがの原因になります。

② 機体は、注意深く手入れしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、チェン刃は常に手入れをし、よく切れる状態に保ってください。
- 付属品やアタッチメントの交換、機体の手入れ、注油などは取扱説明書に従ってください。
- ハンドル部は、常に乾いたきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⚠ 警　告

③ 修理は専門店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、けがなど事故の原因になります。

④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- スイッチはOFFの位置にして保管してください。
- 機体は燃料タンクおよびキャブレターから燃料を抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。

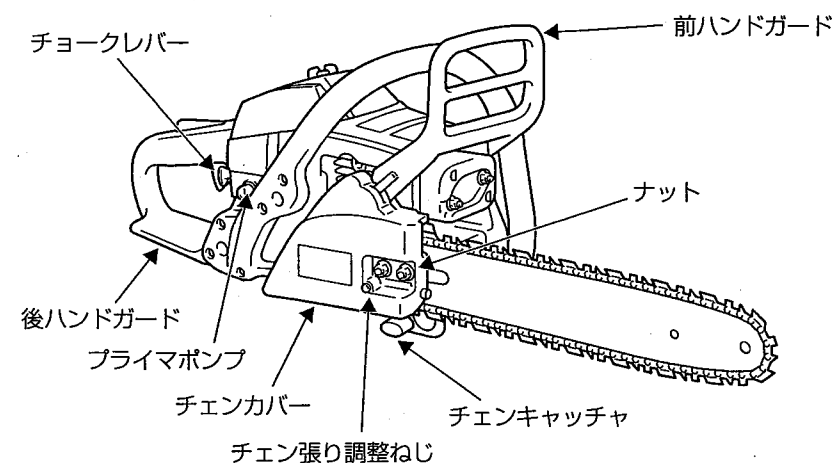
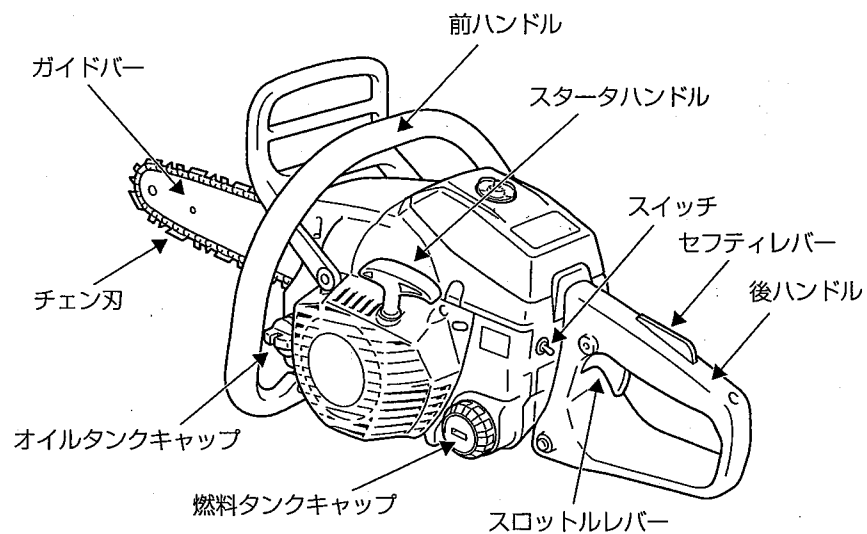
⑤ 燃料は安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。

⚠ 注　意

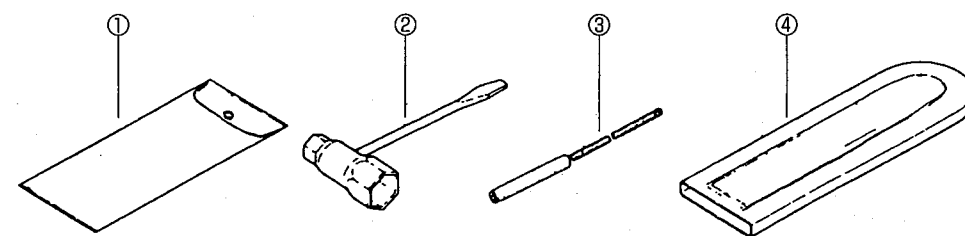
① 長時間の連続使用は避け、10分間作業したらひと休みしてください。
行政機関では次のような指導をしているので、健康管理のために守ってください。
〔1回の連続使用時間　10分間以内、1日の使用時間　2時間以内〕

② 作業の前後やひと休みするときには、手足や身体を曲げたり、伸ばしたりして軽い体操とマッサージをしてください。また、寒いときには手足や身体の保温を心がけ、ひと休みするときに暖をとってください。

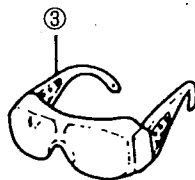
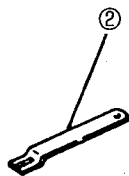
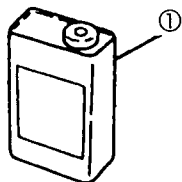
③ 切断作業する前に、チェン刃が木材やその他のものに触れていないことを確認し、次にエンジンの回転を上げてから切り込んでください。
機体が引っ張られたり、戻されたりして、けがの原因になります。

各部の名称

仕　　様

項　　目	CS35ED3	CS40ED3
エンジン形式	空冷2サイクルガソリンエンジン	
排気量	34.0mL ｛34.0cc｝	
燃料混合比	ガソリン25：オイル1（オイルは2サイクル専用オイル）	
燃料タンク容量	0.32L	
チェンオイルタンク容量	0.19L	
キャブレター	ダイヤフラム式	
起動方式	リコイル式	
点火方式	フライホイルマグネト式（電子点火方式）	
点火プラグ	NGK BPM7A	
ガイドバーサイズ	350mm	400mm
チェン刃	ピッチ3/8インチ ドライブリンク数52 オレゴン91VG	ピッチ3/8インチ ドライブリンク数57 オレゴン91VG
チェンオイル給油方式	自動給油	
寸法	385×225×255（mm）	
質量	3.8kg	

標準付属品

①工具袋 ……………………………………1個
②両口ボックス ……………………………1個
③丸ヤスリ …………………………………1個
④チェンケース ……………………………1個

別売部品

（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

① チェンソー用オイル（1L入り）
② デプスゲージジョインター
　チェン刃の目立てに使用します。
　使用方法は20ページ「チェン刃の目立て」の項を参照してください。
③ 保護メガネ

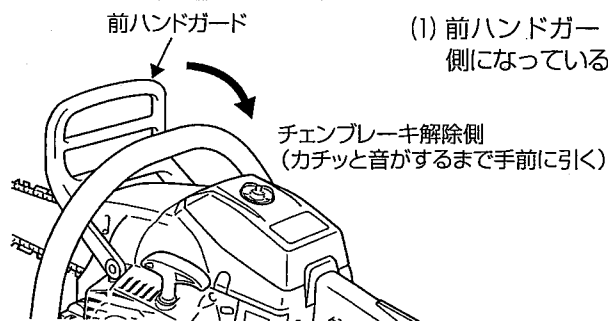
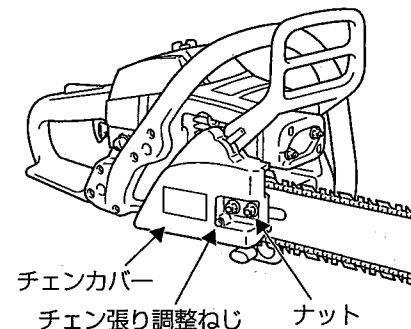
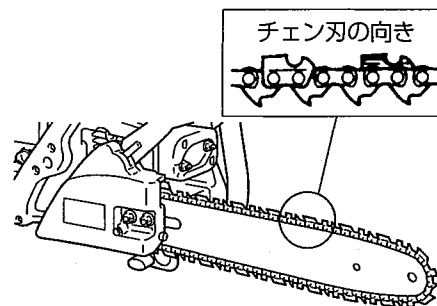
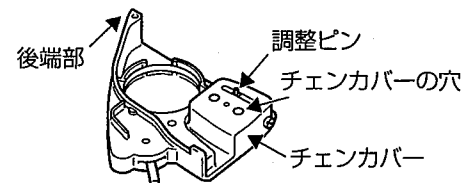
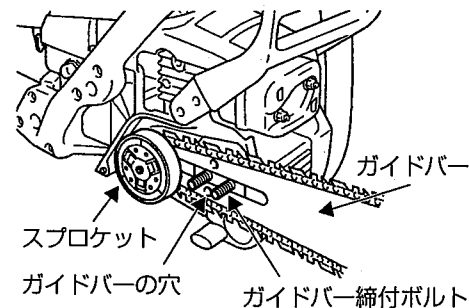
用　途

○**木材の切断**
〈用途例〉
椎茸栽培用ほだ木作り、果樹の枝落とし、伐木、マキ切り、古材切り、柱の荒切り・捨て切り

ご使用前に

1. チェン刃とガイドバーの取付け

⚠ 警　告

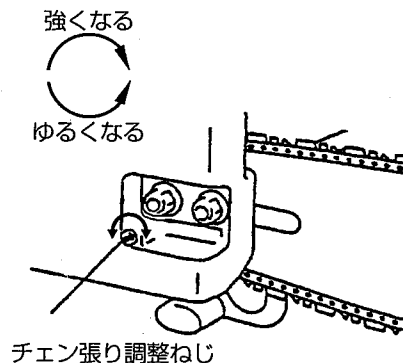
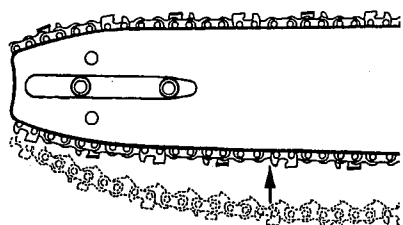
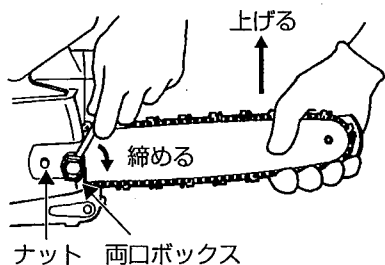
- **万一の事故を防止するため、必ずエンジンを止めてください。**
- **チェン刃には鋭利な刃が付いています。手袋を着用するかボロ布を使用し、けがをしないようにしてください。**

(1) 前ハンドガードがチェンブレーキ解除側になっていることを確かめてください。

(2) チェンカバーを締付けているナットをゆるめて、チェンカバーをはずします。（左下図参照）
　ガイドバーをガイドバー締付ボルトに入れ、次にチェン刃をスプロケットに掛け、ガイドバー先端まで回してガイドバーの溝にチェン刃を入れます。（左上図）
　このときチェン刃の向きは左中図のようにセットしてください。

(3) チェンカバーの穴にガイドバー締付ボルトを通してからチェンカバーの調整ピンをガイドバーの穴に入れます。
このときチェンカバーの後端部も確実に合わせてください。（左上図）

注 • **調整ピンがガイドバーの穴に入らないときはチェン張り調整ねじ（左下図）を右または左に回して調整ピンの位置を合わせてください。**

(4) 次にチェンカバー締付け用のナットを軽く締めます。（左下図）

注 • **ガイドバーを前後させ、調整ピンがガイドバーの穴に入ったことを確認してください。**

2. チェン刃の張り方

(1) チェンカバー締付け用のナットを軽くゆるめた状態でガイドバーの先端を持ち上げながら、マイナスドライバーで調整ねじを回し、チェン刃の張りを調整します。調整ねじを右に回すとチェン刃の張りは強くなり、左に回すとゆるくなります。

(2) チェン刃の張りは、ガイドバーの先端を持ち上げながら調整ねじを右に回し、ガイドバー下側にチェン刃が接触する程度に調整します。

(3) 調整が終わりましたら、ガイドバーの先端を持ち上げながらチェンカバー締付け用のナット（2個）を付属の両口ボックスでしっかりと締めてください。

注
- **チェン刃が適切に張られていないと、チェン刃やガイドバーを傷め、故障の原因になります。特にゆる過ぎるとチェン刃がはずれることがあります。適切に張られていることを確かめてください。**
- **チェン刃が新しい間は、特に伸びやすいので、ときどき張り具合を点検し、調整してください。合わせてチェンカバー締付け用のナットにゆるみがないことを点検してください。**

3. 燃料を燃料タンクに、チェンオイルをオイルタンクに入れる

⚠ 警　告

- **燃料、チェンオイルの補給はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。**
- **タバコ、その他の火気を近づけないでください。**
- **燃料、チェンオイルはタンクの口もといっぱいに入れないでください。もし燃料、チェンオイルが機体などにこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。**

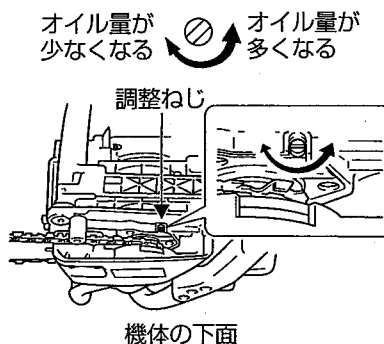
○燃料タンクキャップをはずし、燃料タンクに燃料を入れてください。
燃料はガソリンと2サイクル専用オイルを25：1の比で混合したものをご使用ください。

○オイルタンクキャップをはずし、オイルタンクにチェンオイルを入れてください。
チェンオイルをお買い求めの際は、別売部品の日立チェンソー用オイル（1Ｌ入り）か、市販のエンジンオイルSAE20またはSAE30を使用してください。

注
- **燃料に混合するオイルは必ず2サイクル専用オイルと指定されているものを使用してください。長期間保管していた燃料などで、ガソリンの揮発した低質燃料は使用しないでください。**
- **燃料タンク、オイルタンクにゴミなどの異物が入ると、故障の原因になります。ゴミが入らないように気をつけてください。**
- **燃料補給時は必ずチェンオイルも補給してください。**

4. チェンオイル吐出量の調整

オイル量が少なくなる
オイル量が多くなる
調整ねじ

機体の下面

チェンオイルはエンジンを始動させると自動的にチェン刃に給油されます。

チェンオイル吐出量は工場出荷時に適正にセットされていますので特に調整の必要はありませんが、作業に応じて調整するときは次のようにしてください。

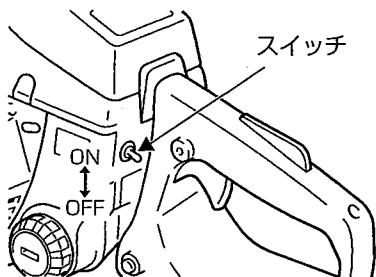
左図の調整ねじ（穴の奥）を左右に回します。吐出量を増す場合は調整ねじを⊕方向（反時計まわり）に、吐出量を減らす場合は⊖方向（時計まわり）に回してください。

始　　動

⚠ 警　告

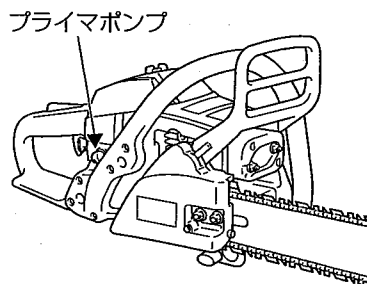
- **機体の周囲に他の人がいないことを確認してください。**
- **チェン刃にかぶせてあるチェンケースをはずしてください。**

下記の手順で始動してください。

1. エンジンが冷えているとき

(1) 前ハンドガードを前方に押してチェンブレーキが働いている状態にします。
（19ページの図参照）

(2) スイッチをONにします。（左上図）

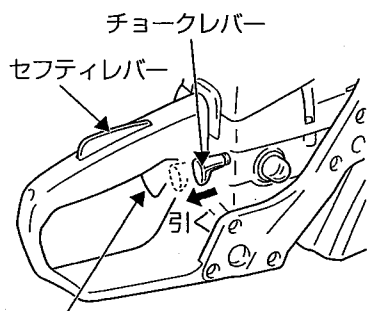
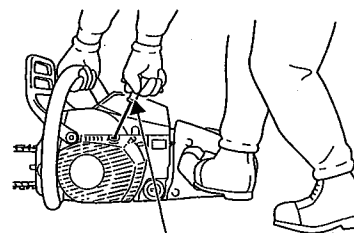
(3) チョークレバーを引きます。（左下図）

注 **• チョークレバーを引くと自動的にスロットルが中間開度に固定されます。**
• チョークレバーを引いてから元に戻すと、スロットルだけ中間開度に固定されます。

(4) プライマポンプを数回押し、燃料がプライマポンプ内に入ったことを確認します。（左中図）

(5) 右足で後ハンドルを、左手で前ハンドルを押さえてスタータハンドルを引きます。（次ページの図）

注 **• スタータハンドルはロープ引き出し口の方向にならって、まっすぐに引いてください。**
• ロープはいっぱいに引ききらないでください。

(6) 数回引いて爆発音がしたら、チョークレバーを元に戻し、スタータハンドルを引くとエンジンは始動します。

注 **• 必ずチェンブレーキを働かせて始動してください。チョークレバーを戻してもスロットルは中間開度で固定されたままです。この状態で始動するとチェン刃が回りはじめます。**

(7) エンジンが始動したら、直ちにエンジンをアイドリングに戻してください。スロットルレバーを少し引いて離すと、エンジンはアイドリングに戻ります。

注 **• スロットルレバーはセフティレバーを押さないと引けない構造になっています。**

(8) 前ハンドガードを手前に引いて、チェンブレーキを解除します。
（19ページの図参照）

注 **• チェンブレーキを解除するとチェン刃が回りはじめることがあるので注意してください。**
• チェンブレーキが働いている間はエンジンの回転を上げないでください。

注 **• スタータハンドルを数回引いても始動しないときは、(3)からの手順を繰り返します。**

2. エンジンが暖まっているとき

(1) スイッチをONにします。

(2) スタータハンドルを引きます。〔前ページの(5)参照〕

○上記方法で始動しないときは、「1．エンジンが冷えているとき」と同じ方法で始動してください。

○夏場で気温の高いときに運転し、停止後10～20分経過して再始動しようとしたとき、始動しにくい場合があります。このときは「1．エンジンが冷えているとき」の手順(1)～(5)まで行ない、続けて次の操作をしてください。

①スタータハンドルを引いて爆発音がしたら、チョークレバーを半分～1/3くらい戻し、再びスタータハンドルを引きます。

注 **• チョークレバーは、引く途中で固定できません。一度引ききって、戻しながら位置を固定してください。このときスロットルは中間開度で固定されます。**

②エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に元に戻します。エンジンが停止したらチョークレバーを引いて、①の操作に戻ります。

エンジンの回転が持続するようになるまで①②の操作を繰り返してください。

運　　転

1．暖気運転

エンジンが始動したら、アイドリング状態で2〜3分間（暖気運転）をしてください。

寒冷時には特に十分な暖気運転が必要です。

2．運転方法

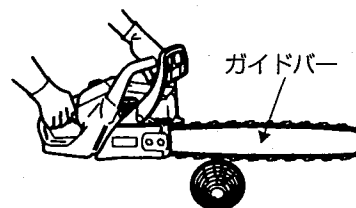
暖気運転が済みましたらスロットルレバーを徐々に引いてください。
チェン刃が回りはじめます。

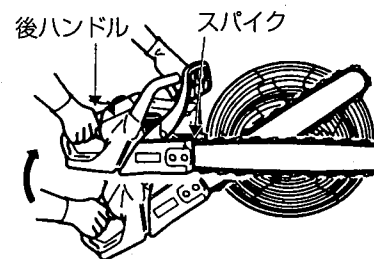
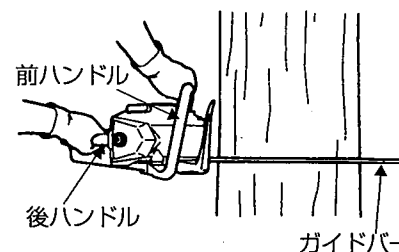
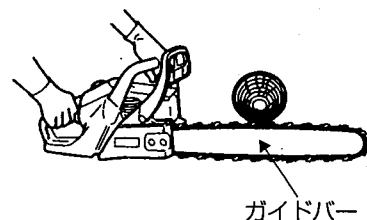
注 **• チェンブレーキが解除されていることを確認してください。**
（19ページの図参照）

• 切断前に、チェンオイルが出ていることを確認してください。ガイドバー先端を木材などに近づけて、1〜2分間中間回転速度で空運転して、木材にオイルが飛散していればオイルは出ています。

3．切り方の基本

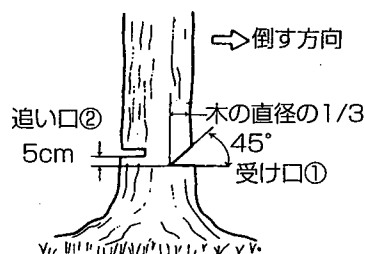
⚠ 警　　告

- **チェン刃に、手や身体および衣服などが触れないように十分注意してください。**
- **片手で作業しないでください。左手で前ハンドルを、右手で後ハンドルをしっかり握り、機体の左側に立って作業してください。**
- **切断する木材がぐらぐら動かないように固定してください。**
- **チェン刃が木材に触れた状態で、チェン刃を回しはじめないでください。必ず、チェン刃のスピードが完全に上がってから木材に当て、切断をはじめてください。**
- **切断中は、チェン刃が地面や別の木材、枝などに触れないようにしてください。特に、切り終わりにいきおいあまって地面に接触しないように十分注意してください。**
- **木材の下側から切り込みを入れる場合、チェン刃を木材に強く当てないでください。またこの場合、最後まで切断しないでください。最後まで切断すると切り終わりに、いきおいあまってガイドバーがはね上がり、けがの原因になります。**
- **使用中にチェン刃が止まったり、異常音を発したときには、直ちにエンジンを止め、機体を点検してください。**
- **作業が終わったら、必ずエンジンを止めてください。**

⑴ チェン刃が木材に触れない状態でスロットルレバーを全開まで引き、チェン刃のスピードが完全に上がってから切断をはじめます。

⑵ 細い木材を切断する場合は、ガイドバーのつけ根付近を木材に軽く当てるだけで切断できます。
　チェンソー自身が自然に切り込んでいくのでむやみに押しつけないでください。

⑶ 太い木材を切断する場合は、ガイドバーを木材に軽く押しつけてください。
　切り込みを強くするときは、機体の前部についているスパイクを切断する木材に当て、このスパイクを支点として、後ハンドルを持ち上げるようにします。

⑷ 木材を水平方向に切断する場合は、ガイドバーが下側になるよう機体を右側に倒した状態で前ハンドルの上側を左手で持ちます。ガイドバーを水平にして機体の前部についているスパイクを木材に当て、このスパイクを支点として後ハンドルを右に回すようにして切り込みます。

⑸ 木材の下側に切り込みを入れる場合は、ガイドバーの上側を木材に軽く当て、途中まで切り込みます。最後まで切断しないでください。

4. 伐木

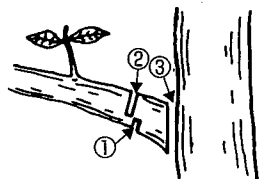
⚠ 警　告

- **木の倒れる方向をよく確認し、また、木の倒れる反対線から約45°の方向に避難する退避場所を決めてください。**
- **切断の際にガイドバーがはさまれないようにしてください。**
- **傾斜地では、木の倒れる方向や倒れた木が転がる方向をよく確認し、また足場を確保して身体の安定を保って作業してください。**

(1) 木の形状や周囲の状況を考慮し、木を倒す方向を決めます。
(2) 退避場所を決めます。木のまわりや退避場所の障害物を取り除きます。
(3) まずはじめに倒そうとする側に受け口①を切り込みます。受け口は木の直径の1/3くらいが適当です。
(4) 受け口の反対側で受け口の下面より5cm程度高い位置に追い口②を切り込みます。
(5) 木が倒れはじめたら、エンジンを停止して、あらかじめ決めておいた退避場所へ避難します。

5. 枝落とし

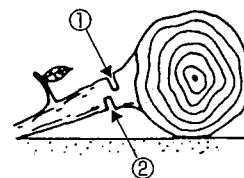
〈立木の枝落とし〉

⚠ 警　告

- **落ちてくる枝から、安全に避難できるようにしてください。**

(1) 太い枝は、最初につけ根から少し離れたところの下側①から3分の1くらい切り込みます。
(2) 次に上側②から切り込んで落とします。
(3) 最後に、残りの部分をつけ根③から切り落としてください。

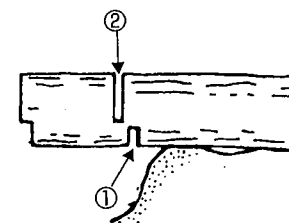
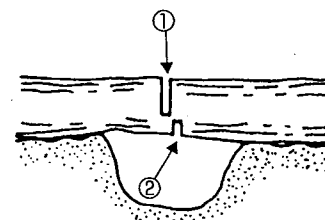
〈倒れた木の枝落とし〉

⚠ 警　告

- **地面に当たっている枝は丸太の質量を受けているので、切るときにガイドバーをはさまないようにしてください。また、切り終わりに丸太がころがらないようにしてください。**

(1) まず地面に当たっていない枝から切り落とし、その後地面に当たっている枝を切りとります。
(2) 地面に接触している太い枝は、まず上側①から半分くらい切り込み、次に下側②から切り込み枝を落とします。

6. 玉切り

⚠ 警　告

- **切断の際にガイドバーがはさまれないようにしてください。**
- **傾斜地で作業する場合は、必ず木材より上方で作業してください。下方で作業すると、切り落とした木材がころがってくることがあります。**

(1) 先端の浮いている部分を切る場合は、まず下側①から3分の1程度切り込み、次に上側②から切り落としてください。

(2) くぼみにまたがっている部分を切る場合は、まず上側①から3分の2ほど切り込み、次に下側②から切り通してください。

停　　止

⚠ 警　告

- **エンジン停止後もマフラが熱いので枯草など燃えやすいものがある所へ置かないでください。**
- **エンジン停止後、機体を移動したり保管するときは、チェン刃にチェンケースをかぶせてください。**

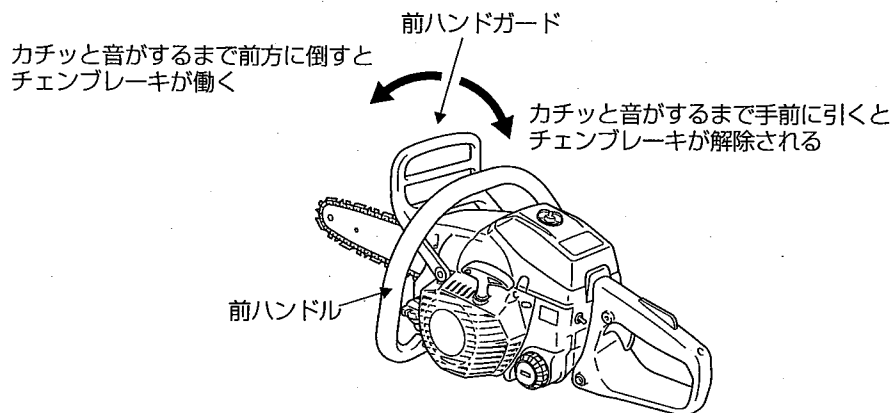
スロットルレバーを戻して、エンジンの回転を低速にします。次にスイッチをOFF側に倒すとエンジンが停止します。（13ページの左上図参照）

チェンブレーキ

⚠ 警　告

- **チェンブレーキは、はね返り（キックバック）が起きたときに、作業者に加わる危害を少なくするためのものであり、はね返りによる危害を完全に防げるものではありません。チェンブレーキを過信せず、常に正しい安全な使い方をしてください。**

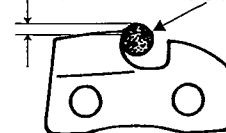
4ページの②、④項に記載されていることを守らないと、切断中機体のはね返り（キックバック）を起こす可能性があります。

万一、はね返りが起きたとき、前ハンドルを握っている手が前ハンドガードを前方に倒すことによりチェンブレーキ装置が働き、チェン刃は停止します。チェンブレーキを解除するときは、前ハンドガードを手前に引き戻してください。

チェン刃の目立て

⚠ 警　告

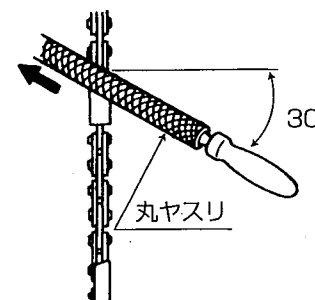
- **万一の事故を防止するため、必ずエンジンを止めてください。手袋を着用し、チェン刃でけがをしないように作業してください。**

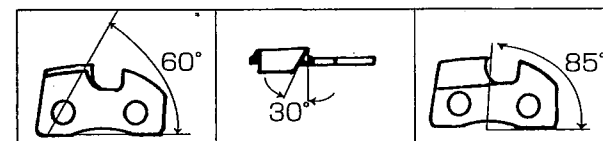
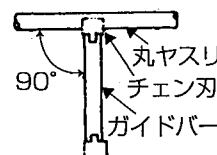
丸ヤスリ直径の1/5　丸ヤスリ

30°

丸ヤスリ

チェン刃の切れ味が悪くなると、エンジンや機体の各部に無理をかけ、能率も悪くなります。

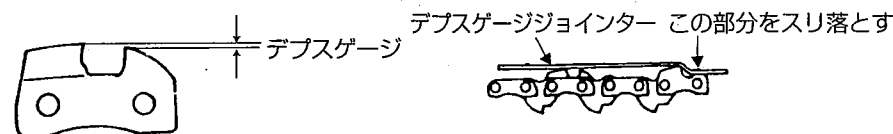
機体の能力を発揮するためには、チェン刃をまめに手入れし、切れ味の良い状態にしておくことが必要です。

注 • 目立ておよびデプスゲージの調整は、チェン刃を機体に取付けたままガイドバーの中央部で作業してください。

1. 目立て

付属の丸ヤスリを使用し、左上図のように丸ヤスリ直径の1/5をチェン刃の上に出して、左中図、左下図のように30°の角度で水平にすべてのチェン刃をヤスリがけしてください。すべてのチェン刃の角度がそろっていないと、曲って切れることがありますので注意してください。正しく目立てされたチェン刃の各部角度は下図のようになります。

2. デプスゲージの調整

注 • この作業は別売部品のデプスゲージジョインターと市販の平ヤスリを使用してください。

下図の寸法をデプスゲージと呼びます。デプスゲージは切り込み量を決める重要な寸法で、この機体のチェン刃の場合は0.6mmが最適です。目立てをするとデプスゲージがだんだん小さくなります。目立てを3～4回するごとに、下図のようにデプスゲージジョインターを当て、デプスゲージジョインターの溝から上に出たら、平ヤスリでスリ落としてください。

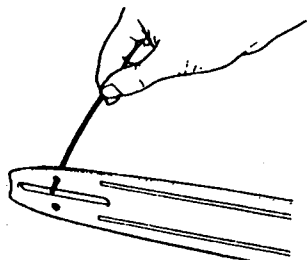
デプスゲージジョインター　この部分をスリ落とす

保 守・点 検

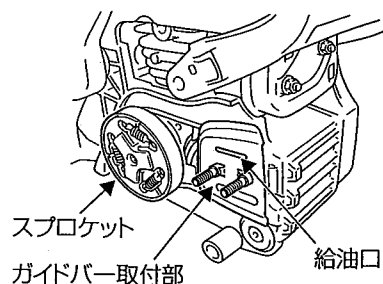
⚠ 警 告

• 点検・手入れの際は、必ずエンジンを止めてください。

1．チェン刃の点検

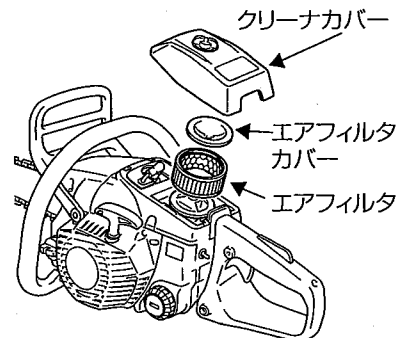
(1) ときどきチェン刃の張りを点検し、正しく張られていない場合は、11ページの「チェン刃の張り方」を参照し、調整してください。
(2) 切れ味が悪くなったらそのまま使用せず、20ページの「チェン刃の目立て」を参照し、目立てをしてください。

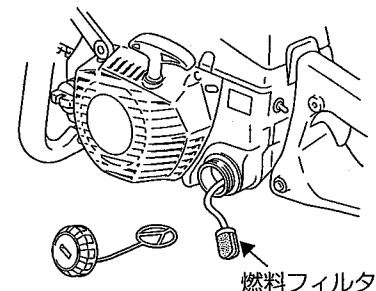
2．ガイドバーの掃除

ガイドバーの溝や油の出る穴に切粉などがつまると、油がまわらなくなり故障の原因になります。ときどきガイドバーをはずし、針金などで掃除してください。

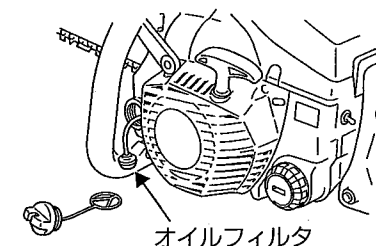
3．給油口、その他の掃除

ガイドバーをはずして、ガイドバー取付部、スプロケットのまわりや給油口に付いている切粉を掃除してください。

4．各部取付けねじおよび燃料漏れの点検

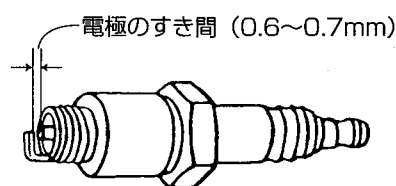
各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、また燃料漏れはないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締めなおしてください。また燃料が漏れているときはよく拭き取り漏れの原因をよく調べ、異常がある場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理に出してください。

5．エアクリーナの掃除

長期間使用しエアクリーナに木くずなどがたまるとエンジン性能の低下の原因になるので、ときどき点検してください。
クリーナカバーとエアフィルタカバーをはずし、エアフィルタを取出してゴミを払ってください。汚れがひどいときは、歯ブラシなどでゴミを落としてください。

6．燃料フィルタの掃除

燃料フィルタが詰まるとエンジンの回転不調の原因になるので、ときどき点検してください。
燃料注入口より燃料フィルタを引き出し、汚れているときはガソリンでよく洗ってください。燃料フィルタを元に戻すときは、タンクの底まで確実に押し込んでください。

7．オイルフィルタの掃除

オイルフィルタが詰まると油がまわらなく故障の原因になるので、ときどき点検してください。
オイル注入口よりオイルフィルタを引き出し、汚れているときはガソリンでよく洗ってください。

8. 点火プラグの点検と調整

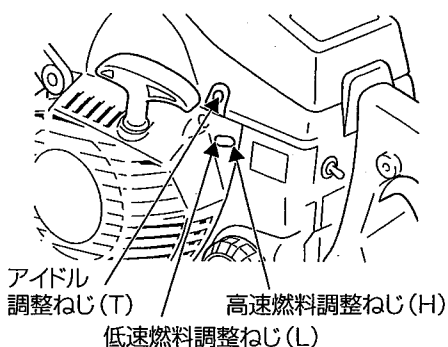
点火プラグの状態はエンジンの調子に大きく影響しますから、ときどき点検してください。

(1) 電極部が汚れている場合は良く掃除し、電極のすき間を所定の寸法（0.6～0.7mm）に調整してください。
(2) 電極部がひどく焼け、丸くなっていたり、ガイシ部にひびが入っているときは新品と交換してください。

注 **• 点火プラグは必ずNGK BPM-7Aをご使用ください。**

9. キャブレターの調整

標準の調整位置は下表のとおりです。

標準調整位置	
アイドル調整ねじによるアイドリング回転数	2700～3500min⁻¹ {2700～3500回/分} チェン刃が回らないことを確認する
低速燃料調整ねじL	全閉から1¼回転戻し
高速燃料調整ねじH	全閉から1⅛回転戻し

燃料調整ねじの数値は、下図のねじを右に静かに回し、全閉したところからの左への戻し数値です。

注 **• キャブレターは工場出荷時に調整してありますので、むやみに調整しないでください。調整ができない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご用命ください。**

10. 定期点検

1年に1度以上は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申しつけ、定期点検を行なってください。

保管方法

チェンソーを長持ちさせ、性能を十分発揮するには十分手入れをし、保管方法に注意を払うことが大切です。

チェンソーを使わないで保管しておく場合は次のようにしてください。

(1) 燃料タンクおよびキャブレターから燃料を抜き取ってください。

注 **• キャブレターから燃料を抜くときは、エンジンを始動させ、燃料切れにより停止するまで低速運転してください。**
• キャブレター内に燃料が長期間残っていると、変質してキャブレター内部を腐食させ、また燃料のオイル分が通路をふさぎ、始動不良になります。

(2) スイッチをOFFの位置にしてください。
(3) プラグキャップを点火プラグから抜いてください。
(4) 全体をよく掃除し、油を湿した布で拭き、ほこり、雨水のかからない乾燥した場所に保管してください。
(5) クリーナの掃除をしてください。
(6) シリンダのフィンからほこりを取除いてください。
(7) 点火プラグをはずし、その穴から2サイクル専用オイルを数滴落とし、クランク軸を2～3回まわしたのち点火プラグを取付けてください。
(8) 火気のない所に保管してください。
(9) 燃料は火気のない冷たい乾燥した場所に安全な容器に入れて保管してください。また、お子様がいじらないよう鍵のかかる容器にしてください。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご用命ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

この機体は、（社）日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

故障の発見と処置

状況		原因	処理
スタータハンドルが引けない	クランクシャフトが回らない	ピストンリング焼付き	分解、部品交換
		コンロッド軸受部焼付き	分解、部品交換
始動しない	始動操作を繰返してもプラグがぬれない	タンクに燃料がない	補　給
		燃料フィルタのゴミづまり	掃　除
		スロットル、ポンプ操作不適	適切な始動方法
	火花が出ない	プラグ不良	掃　除(交換)
		プラグ、キャップ接続不良	点　検(交換)
		高圧コード断線、端子はずれ	修　理(交換)
		コイル断線	交　換
		ユニット不良	交　換
	プラグ電極間に異物がはさまりショートしている		異物除去（しばしば起こる場合はエンジン分解、洗浄）
	圧縮がない	ピストンリング不良	交　換
		ピストン摩耗	交　換
		オイルシール寿命	交　換
始動するが爆発が続かない	火花が弱い	プラグ不良	掃除、調整(交換)
	圧縮が弱い	ピストンリング摩耗	交　換
		クランクケース圧縮不良	オイルシール交換
	火花が強く、圧縮もよい	キャブレターのゴミづまり	分解、掃除
始動するが……	回転調子が変動する	アジャスタ開度が小さすぎる	調　整
		キャブレターのゴミづまり	分解、掃除
	燃料消費が大きすぎる	クリーナのゴミづまり	掃　除
		高速燃料調整ねじ開度不適	調　整
	スロー回転でクラッチが入る	クラッチ部の摩耗	交　換
	クラッチの入る回転が高い		
チェンオイルが吐出しない		タンクにオイルがない	補　給
		給油口のゴミづまり	掃　除
		ガイドバーの給油口のゴミづまり	掃　除
		オイルフィルタのゴミづまり	掃　除
		チェンオイル量の調整不良	調　整

メ　　モ